

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370900320		
法人名	社会福祉法人 旭川荘		
事業所名	グループホームやすらぎ荘		
所在地	岡山県高梁市備中町布賀3513-2		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 8 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成17年4月に開設し17年目となる。自然豊かなこの地域で静かな環境の中で景色を眺め四季を感じることができる。施設の近くに畑があり天候の良い時には苗を植えたり収穫を一緒に行い、のんびりと散歩ができ、体力維持に役立っている。職員は20代から70代まで年齢層も幅広く、利用者さんにとって家庭的な役割ができている。一つの大きな家族の様に過ごし、嬉しい時には共に笑い、悲しい時にはそっと寄り添い支えあって生活している。コロナ禍において、地元での地域活動が出来なくなっているが、個別の外出、3班に分かれてのドライブ等を計画し、個別のニーズにこたえる様に職員一同努力している。また、季節の野菜や果物を収穫しおいしい手料理を振る舞い、利用者さまから喜んでいただいている。軽度の認知症から、重度化にも対応できるように、勉強会を定期的開催し介護力の向上にも力をいれている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370900320-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山県岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 1 月 16 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然の風土を活かし、手作りにこだわった食事の取り組みを行っている。3食の食事はもちろんのこと、利用者の要望に応え、ピザや手打ちうどんを年に数回作ったり、元シェフやパティシエの職員がメニューに工夫を凝らしている。やすらぎ畑でとれた新鮮な野菜や近隣の住民からの差し入れを上手に風情を加えながら、なかでも利用者が収穫したゆずでジャムを作る一工夫をいれたことで、地産地消の生活が送れている。食事だけではなく、各行事に応じた掲示物や張り子の作品も手作りで、廊下の壁面には数多くの展示物が置かれ、温かみのある雰囲気が感じられた。職員の意識も高く、介護福祉士の資格習得に向けて、積極的に取り組む体制ができているばかりか、職員間の意思疎通も潤滑にできていて、前向きさには類がない。だからこそ利用者は安心して笑顔で毎日を過ごすことができ、施設全体が大きい家族のように感じるほど、穏やかであった。まさに【やすらぎ】の場となっていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の基本理念は旭川荘の天を敬い人を愛する人間尊重の精神を共有し、基本方針は職員皆で創りあげているもので、利用者の「自由・健康・安全」な生活ができる事を基本としている。この基本方針は事務所と研修室に掲示し職員に周知すると共に新人職員の研修でも伝えている。	理念は、玄関、事務所、休憩室の見えるところに掲示している。本部の研修や1ヶ月に1回行われる施設長会議でも理念に触れている。職員会議の際には、情報の共有を図ると共に事業所の理念にも触れることで、職員により浸透しやすくしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会には参加できないが、コロナ前は地域で開催されるイベントには皆で参加していた。また日常的に散歩や買い物等に出掛け地域との交流に努めている。職員が近所に野菜や果物を貰いに行ったりと、日常的な交流は継続している。	近隣の散歩や買い物の際に、出会った人と挨拶を交わしている。近隣住民や職員から野菜の差し入れがあり、隣接する社会福祉協議会の施設との交流もある。地域の方の畑で実った、ゆずや銀杏を利用者と共に取りに行ったこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、夕涼み会等を通じてGHの取り組みや認知症のケアについて、ご家族や地域の方にお話しをしている。介護福祉士養成校より学生の実習の受け入れも行ってた。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催できている。コロナ禍のため対面での開催はできていない。電話等で個別に家族や関係機関に意見や話を聞く形で行い、議事録を送付している。書面開催としている。対面での開催はコロナの状況を見て検討のうえで開催する予定。	現在は書面にて開催。家族代表、地域包括、民生委員、町内会、健康福祉部、支部長が参加している。利用者状況、ヒヤリハット、行事活動の報告をしている。返信される用紙いっぱい記入してくれる家族の意見が職員の励みとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	関係機関とは日常的に連絡を取り合っている。メールや電話等で相談や、情報交換を行っている。3か月に1回発行の「やすらぎ通信」を送付している。	市町村との関係は良好で、わからないことがあれば何でも教えてくれる。市が主催する認知症キャラバンにも数名の職員が加入して、講演会に参加している。最近では、コロナの関連の情報やマスクや消毒液、フェイスガードなどの物資提供をして頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	荘内は常に入出入り自由にしており、施錠は夜間のみである。外出しそうな気配を察知したら、さりげなく声かけしたり、本人の思いを聞きながら一緒に歩くようにしている。身体拘束廃止についてマニュアルを作成し職員で共有している。	虐待と拘束についての学習会を年2回開催している。虐待防止マニュアルに沿った介護をしていて、威圧的な言葉遣いにならないように配慮している。マニュアルは事務所に置いてあるので、いつでも見ることができる。日中は施錠をせず見守る介護に徹している。	今でも十分にできていますが、スピーチロックにも取り組んでみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連については研修に参加したり、会議で話し合いをしている。職員間で日頃からコミュニケーションをとり、職員がストレスを感じていないか把握に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度利用中の方はおられないが、制度について研修には参加していこうと考えている。わからないことがあれば市の担当者にその都度確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等は細かい内容を確認しながら読み上げ同意をもらうようにして、疑問点には答え説明し理解を得るようにしている。又分からないこと等は遠慮なくその都度言って頂くようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に歩みの箱(ご意見箱)を設置しているが利用がなく、ご家族には意見や苦情がないか面会時に声を掛けたりしている。気になることがあれば申し送りノートに記載して情報の共有を図っている。また、運営推進会議での意見もスタッフで共有し改善に向けた取り組みも行っている。	法人による内部監査をした際には、苦情がひとつもなく、家族との関係性は良好である。些細な体調の変化でも電話連絡をするようにしている。利用者の様子を写真に撮り、SNSで送信したら家族に喜ばれた。クリスマス会のケーキやお節料理の写真を送信したら喜ばれて、初日の出の写真が返信されてきた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で、職員が意見や提案を出しやすいように努力している。職員一人ひとりの意見を尊重している。必要に応じて介護の悩みや職員同士の連携などについて、個別に話し合う機会もつくっている。	職歴の長い職員が多く、何でも言える関係ができています。管理者が個人的に話を聞くことも多く、プライベートの話をするくらい仲が良い。勤務表作成時には、多くの意見が飛び交い、希望休に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	土日の勤務や夜勤もあるが、勤務希望には対応し私用や家族の病気等有給休暇で対応している。また、年2回の健康診断を義務付けし該当者には精密検査も受診させている。資格取得も挑戦させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部、支部等研修制度が充実しており、職員のレベルや業務の担当、学びたい事に応じて研修に参加している。研修後は復命書を回覧し、内容を共有すると同時に職員会議で発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、情報を得ると同時に支部や近隣の研修に職員が参加できるようにしている。市内のグループホームとも電話等で情報を交換している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接では家族、本人に会って要望等に耳を傾けている。ご本人の嗜好、生活等を詳しく聞くようにしている。ご本人の思いや要望をできるだけ把握し安心してご利用いただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っている事や求めている事に対し、出来る限り理解するように努めている。些細な事柄でも遠慮なく話して頂けるような関係性を築くように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人を含めご家族と面会したり実際に施設見学をして頂き要望等を確認しながら可能な限り柔軟な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活してその中でコミュニケーションを図りながら様々な場面を通してたくさんの知恵や励ましの言葉を頂いている。利用者が不安を抱えている時には、気持ちに寄り添いながらその不安を取り除く為の努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状況をこまめに報告、相談すると共に毎月スタッフが作成する近況報告や楽しい様子の写真を送付しお知らせしている。コロナ禍のため、ガラス越しの面会を実施して家族交流を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物などは昔から利用している馴染みの店へ出掛けている。荘内では利用者同士、スタッフ共に密なる関係が育まれるようなケアを行っている。	やすらぎ畑への散歩や玄関先で歌を歌ったり、お茶を飲んだりしながら、近隣の方と挨拶を交わしている。訪問美容師と楽しく会話をすることで馴染みの関係が新たに形成された。昔馴染みの方が施設へ訪問され、ガラス越しで面会を実施したこともある。レクの際に座る席には、職員の手作りの座布団が置いてある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの日頃の生活スタイルや性格を観察し、職員が共有し楽しく自分の時間が過ごせるよう支援している。利用者全員で作品を作ったり、盛り上がるゲームなどを取り入れお互いが協力し合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に変わられた後も家族に様子を聞いたり面会に行くこともある。退所されたご家族のサポートをすることもあるし、事業所へは必要に応じて情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握に努めているが困難な時にはご家族より、情報収集を行いそれによって得た情報はスタッフ間で共有し本人の気持ちに添ったケアをしている。	家族から意見を聴取したり、ケアマネが言葉丁寧聞き取ったりしている。日頃の様子を観察することで、表情や仕草からも汲み取るようにしている。得た情報は、朝の申し送り時に伝えている。家族からの手紙はファイルに保存することで、職員全員で共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や面会時に本人も含め、ご家族からも話を聞いて把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを尊重しながら日々のケアに努めている。変化が認められた時は申し送りやケア記録などで情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の要望を聞き、本人にとってより良い生活を送るために職員会議や通常の業務の中で話し合い情報を共有し、介護計画につなげている。スタッフ同士で意見を話しモニタリングしている。	ケアプランは、入所時に暫定プランを作成し、認定更新時に見直しを行っている。何かあればその都度見直しをして、ドクターの意見も反映している。ケア会議が情報共有の場となっている。必要があればモニタリングを行い、目標を明確にすることで利用者に寄り添ったプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきをケア記録に記載し重要な申し送りは連絡ノートや介護管理日誌に記載している。業務開始前にこれらの記録に目を通すように徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟な対応をし、そのためにもその時々々のニーズの把握やご家族との情報交換を密に行っていく臨機応変な対応に心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーに民生委員さんや町内会長さんを位置づけている。良好な関係を築けてはいるが、徐々に地域の方がご高齢のため面会の回数は減ってきている。社協での行事にも時々呼んでいただき夏のボランティア体験事業には参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診介助はやすらぎ荘で行っている。日々の生活の中で様子観察をして特変あれば、その都度かかりつけ医に連絡して報告、指示を受けている。特変があればご家族にも報告している。それ以外の病院受診は症状の把握のためにも原則、ご家族に同行していただくようにしている。	同意を得た上で、施設のかかりつけ医に全員が転医されている。看護師と24時間体制で連絡が取れ、かかりつけ医同士の連携もできているので、安心して任せられる。訪問看護は週1回、歯科往診は月2回、歯科受診は月1回で全員が受診している。他科への受診も、職員が連れていく。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を図っており、週1回訪問看護があり、ご利用者さんやスタッフの相談にのってもらいアドバイスしてもらっている。毎週末には協力医院からの電話での聞き取りがありもしもの時の土日受診がスムーズに行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院前には情報共有書を作成し病院関係者との情報交換や相談に努めている。入院中は適宜様子をうかがい、退院に向けて病院関係者との情報交換を行い、スムーズな再入所につながるよう調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、状態の変化等こと細かくご家族に報告し、場合によってはご家族とゆっくり過ごせる時間と場所の提供をしている。終末期のあり方についてはご本人、ご家族、医師、看護師、スタッフと共に必要に応じて協議し方向づけたい。	看取り体制は整っているが、ここ数年はなかった。利用者にとって、一番良いケアは何かと模索した上で、重度化した場合には、同法人内の施設やへ提携病院に移ることが多い。入居時に、重度化対応・終末期ケア対応指針に沿って説明をし、家族の同意を得ている。	看取りについて今一度見直しをしてみたいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員数名が救命救急講習を受講している。緊急連絡網や緊急連絡先の一覧がすぐわかるように掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、土砂崩れ(昼、夜想定)の避難訓練を行っている。災害時の備蓄食品等の準備もしている。地域との協力体制としては近所の方をホットラインに登録している。	年3回の防災訓練を実施。隣接する社協の施設と合同での訓練も行った。消防が立ち合い、講話や水消火器の使い方も教わった。結果は本部に報告し、指導を仰いで頂いている。連絡網は事務所に掲示していて、近所の方とはホットラインで繋がっていて、連絡が取りやすい。備蓄は3日分を倉庫に保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に居室はプライベートなスペースであるので入室時にはノックや声かけを行い、作業、掃除の際にも入室する旨を伝えておく。トイレや入浴の誘導や介助にも心を配りお手伝いさせていただいている。	基本は苗字に「さん」付けだが、家族の了承を取った上で、反応が良い場合には、下の名前に「さん」付けで呼ぶ場合もある。居室へは、本人に確認を取ってから入室するようにしている。排泄失敗時には、周りに気付かれないように隠し、そっと後ろからさりげなく優しく言葉を掛けるように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に思いや希望を聞いて、表情も観察しながら気持ちに添った支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、おやつなどの基本的な一日の過ごし方は決まっているが、その他の時間はできるだけ利用者さんがやりたい事、行きたい所を聞き希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍のため、美容院に行くことが困難なため散髪の訪問サービスを利用している。毎回、同じ理容師さんに来てもらっているので馴染みの関係ができています。化粧品や衣類についても希望する物が使用できるように一緒に買いに行き選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	荘の農園や地元の野菜等を利用し季節感のある食事を心がけ、時には入居者さんと収穫したり、メニューを考えたり、それぞれ意欲のある部分で参加してもらっている。荘の中心にあるキッチンには自然と人が集まり、配膳や片付け等も積極的にしてもらえる。	三食手作りが自慢で、畑で採れた野菜や職員が持ってくる食材が食卓を色どり、残食はほぼゼロ。献立表は元シェフの介護職員が確認をし、利用者の意見も反映させている。職員と利用者が一緒に作る手打ちうどんが好評だったので、年数回食した。柿を剥いたり、ゆず絞りをする利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調や服薬を見て食事の量や内容、水分チェックに気をつけている。全体では月に一度、必要な方には週に一度の体重測定を行い過不足のないようにしている。入居者さんは自分の茶碗や湯のみを使用しておりご飯の量も調整しやすくなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に通科往診があり口腔ケアに関する助言も頂きスタッフは、毎食後個々に口腔ケアの声かけをし、介助や必要に応じた仕上げ、チェックをしている。入居者さんの声をよく聞き具合の悪い時には歯科で調整を行っている。就寝前には義歯をはずしポリドント等でケアしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや状態を把握し、個々の状態に応じた誘導を行っている。紙パンツやパット等も失禁の量に応じて個々に合ったものを選び使用している。	日中は要介護が高い方も布パンツで過ごされている。紙パンツで入所した方が、布パンツに改善された事例もある。夜間帯は安眠に考慮して数名の方が紙パンツで過ごしている。ポータブルトイレの蓋に鈴をつけて、排泄したかどうか分かるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や野菜を多くとるように心がけ日々の活動の中に散歩や体操を行い運動不足にも注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前等に健康状態を確認し入居者一人ひとりの時間帯や希望に合わせて入浴できるよう工夫している。拒否する入居者に対してはタイミングや声かけ等スタッフ間で相談し安心して入浴できる様に心がけている。浴槽は家庭的な個浴で入りやすくなっている。	基本1日おきの入浴。新しい手すりに変えたことが利用者に好評で、安全面も格段に上がった。エコキュートも変えたことで適温で入浴できる。その人に合わせた時間帯や優しい言葉掛けをしているので、入浴を拒否する人はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中活動ができるように促し、夜間気持ちよく眠れるように支援している。また希望の時間で安心して入眠できるように働きかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬表を1冊のファイルにまとめいつでも確認できるようにしている。服薬時も2人体制で誤薬、落薬がないように見守っている。服薬に変更がある場合には分かりやすく記載し申し送りも合わせて行っている。職員会議の時間を使って看護師による勉強会も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野に応じて役割設定を心がけている。野外に家庭菜園などを作り一緒に収穫ができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調に考慮しつつ数名ずつでの外出を行っている。その時期のお花や風景をもとに行きたい場所を一緒に決め外出する楽しみを支援している。また天候に応じて中庭、池への散歩をし車椅子使用の方にも積極的に外出を行っている。暖かい日は庭先でお茶を飲んだり、レクリエーションを実施している。	各季節に合わせてドライブへ行き、コロナの状況を見て買い物に行くこともある。玄関先で花を見たり、お茶を飲んだりして過ごすことが利用者の癒しとなっている。外出支援に変わるレクを多く取り入れている。評価当日には、厄除けを込めた獅子舞と戯れる利用者の姿が窺えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者さんの希望があれば、ご家族の都合も聞き、時間帯の良い時に、電話連絡し直接、話ができるように支援している。手紙のやりとりができるようにも支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者さんの希望があれば、ご家族の都合も聞き、時間帯の良い時に、電話連絡し直接、話ができるように支援している。手紙のやりとりができるようにも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、談話室に個人の座布団を使用したり、ソファにカバーをかける配慮をしている。居室前には分かりやすいように表札をつけご利用者さんやご家族の写真を貼っている。壁には作品や飾り物で季節感を出すように工夫している。浴室、トイレ等にも分かりやすく名前をつけたり暖簾をつけたりしている。	玄関横には三畳程の畳の場があり、利用者が腰を掛けておしゃべりをしたり、自分の時間を静かにゆったりまったりと過ごしたりする様子が窺えた。廊下の壁面には、利用者が作成した数多くの作品が展示されていて、温かみのある雰囲気を感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設の外にもベンチ等を数ヶ所設置している。施設内でも談話室や三畳間、玄関等ゆったりと過ごせるスペースがあり、自由に思い思いの場所で過ごしていただけるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、長年自宅で使い慣れた家具や衣服が持ち込める様になっている。	居室の入り口には、写真や牛乳パックの表札を貼ることで、自分の部屋と認識しやすい工夫があった。裁縫が好きな利用者の居室は、自分の作品が利用者を見守るように部屋中いたるところに数多く並べられていた。花に水をあげたり、ソファに座りながら日向ぼっこを楽しんでいる人も微笑ましい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口の名札は見やすい角度に設置している。ご家族との写真も掲示し自分の部屋が分かりやすいようにしている。安全に配慮しながら出来る事(洗濯、物干し、掃除、料理等)は意欲的に取り組めるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				